

## はじめに

本年5月に第66回日本糖尿病学会学術集会在鹿児島で開催され、現地で参加してきました。久しぶりに鹿児島湾に浮かぶ桜島を眺めて、鹿児島出身の私にとって、富士山のように遠くから見守ってくれている存在に感じました。



噴煙を上げる桜島 2023年5月

## 糖尿病と寿命

糖尿病治療の目標は「糖尿病のない人と変わらない寿命と生活の質を確保」することです。日本糖尿病学会は10年ごとに糖尿病をもつ人の死因や死亡年齢に関する調査を行っており、今年の学術集会で新しいデータが発表されました。糖尿病をもつ人の死因の第1位は悪性腫瘍（がん）で、日本人全体の死因の第1位と同じです。第2位は感染症であり、糖尿病の合併症である血管障害（心筋梗塞，脳卒中，腎不全）で亡くなる人はますます減ってきています。糖尿病をもつ人の平均寿命も少しずつ延びていて、糖尿病のない人との差は徐々に縮まっています。このことは糖尿病の検査や治療薬などの進歩にもよりますが、患者さん一人一人が自分の体に向き合い、真摯に治療に取り組んできた結果だと思えます。「一病息災」ともいいますが、糖尿病があることによって健康意識が高まり、糖尿病がなかった場合よりも健康でいられている可能性もあります。糖尿病をもっている人のほうが長生きできるという時代が来るのも夢ではないと思えます。

## 糖尿病の検査 <リアルタイム CGM>

インスリン治療を行っている患者さんは、持続血糖測定（continuous glucose monitoring; CGM）が保険適用で使用可能です。現在では間歇スキャン CGM といって、腕に装着したセンサーにリーダーをスキャンするとグルコース値（≒血糖値）が表示されるという機器が普及しています（フリースタイルリブレ）。

一方、最近登場したリアルタイム CGM は、スキャンをしなくてもセンサーからリーダーに自動でデータを送ってくれる機器です（Dexcom G6）。これらは「検査」機器ですが、血糖値の動きが「見える化」することによって、食事や運動の行動変化や、低血糖の予防など、それだけで血糖コントロールの改善につながる可能性もあるので、CGM は「治療」としての意味も大きいと考えています。

## 糖尿病の薬 <GIP/GLP-1 受容体作動薬>

小腸から分泌される GLP-1 や GIP は、インクレチンと呼ばれるホルモンで、いずれも膵臓からのインスリン分泌を促進します。GLP-1 は食欲抑制や体重低下作用を有しますが、GIP は生理的濃度では肥満を助長する可能性があると考えられていたため、これまで GIP はなかなか治療に応用されてきませんでした。しかし薬として GIP を大量に投与すると、肥満を軽減するということが分かってきました。これまでは糖尿病治療薬としては GLP-1 のはたらきのみを有する薬剤が使われてきましたが、最近 GLP-1 と GIP の両方のはたらきをもつ注射薬が登場しました。GIP/GLP-1 受容体作動薬であるチルゼパチド（マンジャロ®）は、週1回の注射で優れた血糖降下作用を発揮し、GLP-1 受容体作動薬と同じく低血糖は起こしにくい薬剤です。また体重減少効果も大きい薬剤ですので、2型糖尿病治療の新たな選択肢として強力な仲間が増えたといえます。